日刊県民福井　平成２７年　６月１９日（金）

ハッピーフラワー

花の魅力「永遠に」

福井の清川さん

専門店首都圏で人気

花農家だった祖父の死をきっかけに設立した清川小有里さん(三七)＝福井市＝の「生花の保存加工専門店」が、首都圏を中心に女性たちの熱い支持を得ている。起業から一年余り。女性らしい視点によるアイデアが当たり、売り上げを着実に伸ばしている。「花の力ってすごいな」。今、祖父の愛した花の魅力をあらためてかみしめている。（藤共生）

見本のドライフラワーを手にする清川小有里さん＝18日、福井市内で

清川さんの携帯電話が鳴った。「結婚式のブーケ、残せますか？。どうしても枯らしたくないんです」。電話の相手は、結婚式を終えたばかりの新婦。新郎から贈られた手作りのブーケを残したいという。「はい、できますよ」。笑顔で答えると、保存の仕組みを丁寧に説明し始めた。

来月から新サービス

注文の八割は結婚式のブーケの保存。ほかにもプロポーズや誕生日祝いで渡された思い出の花束を保存したいという注文も舞い込む。「プロポーズされて、興奮気味に電話をしてきてくれる人もいます。『バラを百八本贈られたんだ』って。私も説明していて、うれしくなるんです」

清川さんが設立した「ハッピーフラワー」は、思い出の詰まった花束をプリザーブドフラワー（加工して水分を抜いた生花などのこと）やドライフラワーにしている。保存できる期間は三年～十五年。インターネット広告を活用して注文を受け、県内の専門会社で二、三カ月掛けて加工する。注文先のほとんどが首都圏や大阪、名古屋だ。

花農家だった祖父が亡くなったのは、三年前。玄関に必ず飾ってあった花が、祖父の死とともに消えた。家庭でも、笑顔が減った。「寂しい。花を置いて元の明るさを取り戻したい」。祖父の愛した花を求め、福井市内のプリザーブドフラワー教室に通い始めた。

花の魅力をあらためて思い知らされ、「花に関わる仕事がしたい」と思うようになった。そんな時、ふく井産業支援センターの創業補助金のことを知った。「これに懸けてみよう。花を保存したいというニーズはあるはず」。温めていたプランは審査を通過し、勤めていた会社を辞めて独立の道へ踏み出した。

女性起業家として「苦労は感じたことがない」という。七月からは、誕生日を迎えた社員に花を贈る企業向けサービスを始めるなど、事業拡大にも意欲的だ。「やりたくてやっているから全部楽しいんです」。人生を変えた「花の力」に感謝した。

花の加工料金は一万九千～六万円程度。詳しくは「ハッピーフラワー」で検索。